

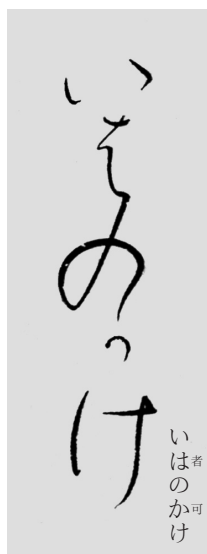
連綿を学ぶ

締切り 十一月二十二日（必着）

意連



連綿線を用いずに、上下の字の筆脈を通す。



いはのかけ

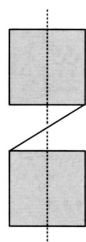


むつ

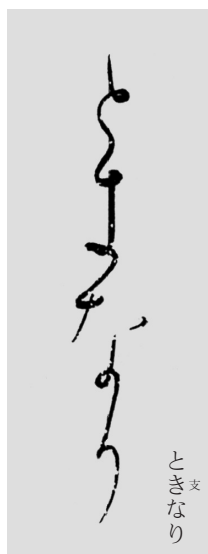


いのち

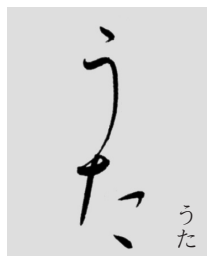
形連 ①



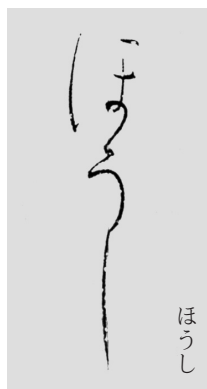
上の字と下の字の中心を通すようにして続ける。



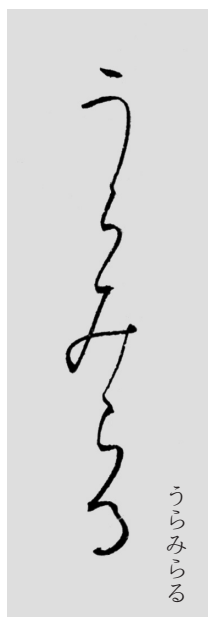
ときなり



うた



ほうし



うらみらる

※高野切第三種から抜粋しました。

【お願い】 出品数が大幅に増加しました。事務処理の正確を期すため、支部略称・氏名・会員番号・毛筆かなの成績をご記入くださるようお願いいたします。

◎文字を続けて書くことを連綿といいます。

実線です。つながったものを形連、実線ではつながっていないものの、気脈が通ったものを意連といいます。ただし一般的には、連綿＝形連をさします。

◎連綿は実用の点からも速書きに適しており、しかも連綿によって表現される流動美、多様な変化こそが、仮名書の美しさといえるでしょう。

◎練習では、単体のイメージを捨てて、連綿のリズムに浸ってみましょう。切りどころ、休みどころを覚えれば、多字連綿でも無理なく書けるようになります。

◎作品の出し方

上掲の図版で示した四行を書いて下さい。

▼硬筆部 B5判（二五七mm×一八二mm）程度の紙に書いて下さい。

※本会かな用紙でも可。

※用具は自由（黒色に限る）

▼毛筆部 かな用半紙横半分を縦に使用し、バランスよく配置して臨書して下さい。（拡大臨書可）

▼出品制限の対象とはしませんので、どなたでも出品できますが、硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼優秀作品数点を、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

〔読み〕

清貧は常に楽しみ、濁富は常に愁う

清

貧

常

同字は変化を

濁

愁

常に線から線へと連なる心持ちで書く

▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。

清貧は常に楽しみ
濁富は常に愁う

おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕

平行に
中心線
のびのびと

鍋

釜

中心でまじわる
上の方で接する
やや小ぶりに

良 諺

	古	女
日	い	房
本	ほ	と
の	ど	鍋
諺	良	釜
	い	は

おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

▼教範・書範は行草または草書
▼師範は行書

夏目漱石

精神の自由を殺す

生活の墮落は

◆12月課題予告(楷書)

清貧の人は、心が清らかで何も後ろ暗いところがなく心安らかに人生を楽しむことができますが、濁富の人はいつも何かにおびえ、心配ごとの絶えない暗い人生を送ることになります。

★清貧：(書体は行草または草書)
「清貧」とは、貧乏でも心が清らかで行いが潔白であることをいい、「濁富」は、悪事を働いて裕福な生活を送ることをいいます。

★女房：(書体は楷書)

商法は
売って悦び買って
悦ぶ様にすべし

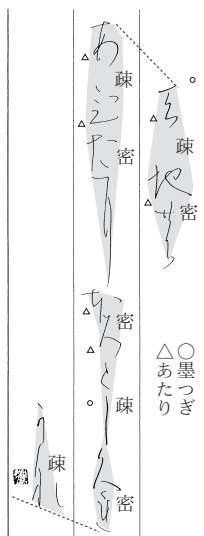
◆12月課題予告(行書)

女房と畳は新しいほうがよい...ということわざもありますが、これは男性側の身勝手なことばと言えてしまう。夫婦にとって最も幸せなのは、心が通い合うことです。ぴったりと二人の息が合うためには、長年一緒に暮らしたという実績がものをいいます。そこで古女房のありがたみも、値打ちも出てくるのです。

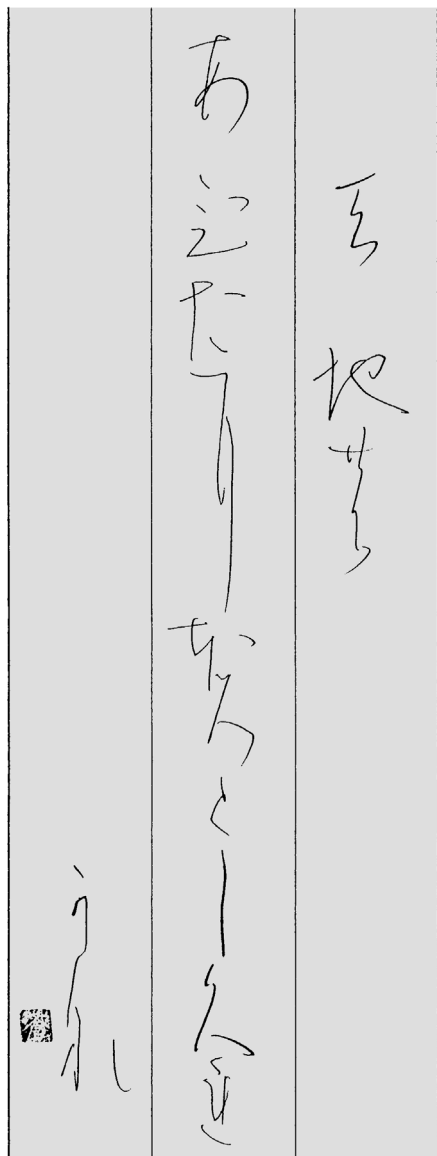
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



天地の間にはろと時雨かな

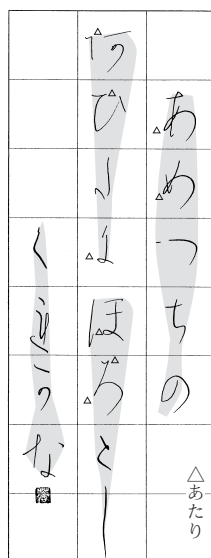


萩 田 蒼 仙 書

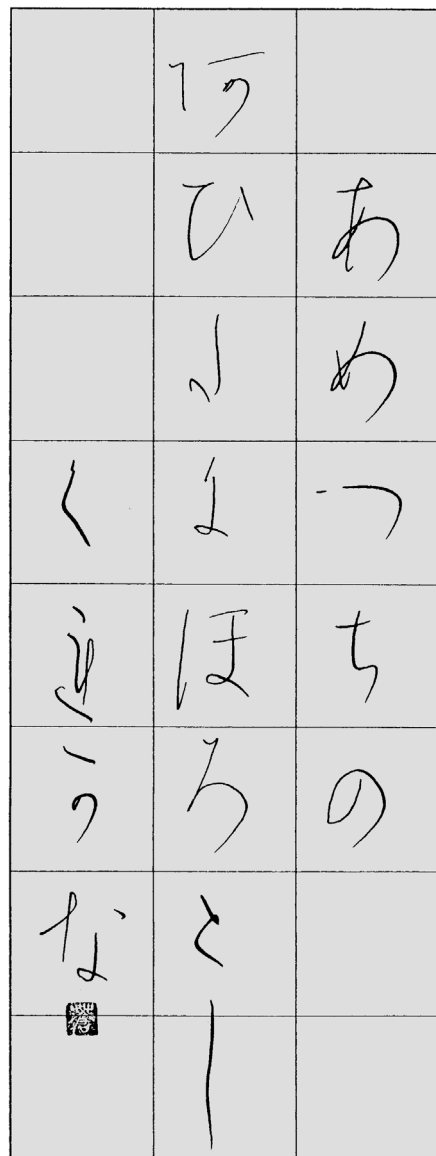
▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



天地の間にはろと時雨かな



萩 田 蒼 仙 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆12月課題予告

雪の嶺仰ぎて心ときめくも

(岡本圭岳)

〔段位ワン・ヒント〕
連綿を使わないで書きました。感心した事ではありませんが、一方法かと思えます。それだけに流れを意識しました。字間、太細、大小等ご留意下さい。かなは上から下へと縦に流れる中に形づくられるものです。単体であっても、行での位置、上の字や、右隣の字により変化します。そこに師なり先輩が必要なのです。毎月三回、自分の作を師にみて頂きますがどこか朱が入ります。この時自分の頭の中になかった新しい知識が入ります。これが有難いのです。研修会の解散まで仕入れが出来るのです。それぞれ持技、コツを持った先生方がおいでになります。

笹波誌より

てそつやすうい

逆入で始まる字(逆筆の方が書きやすい字)

よぬまほむどぬは

結びのある字(△印であてて終筆は軽く抜く)

らちろぬおめあゆ

(右側の力が抜けないために△印で準備する)

単位は何度書いても満足のいかないものです。そこで四十八字を分類してけいこして見るのも一方法です。外形上、大、小から分類出来ますがこの度は左のように用筆上から三種類あげてみました。

〔級位ワン・ヒント〕

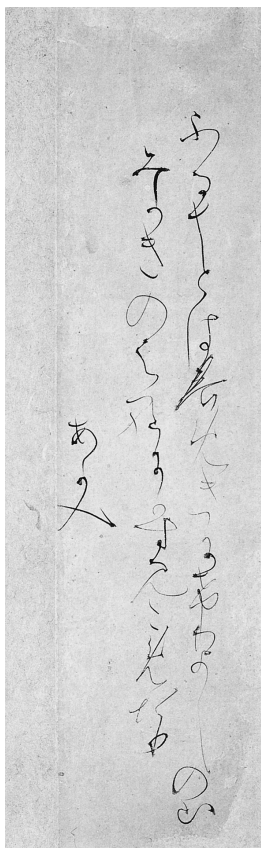
雨のさまをとらえた句。

〔句意〕地を濡らすほどもなく降る時

(山口素堂)

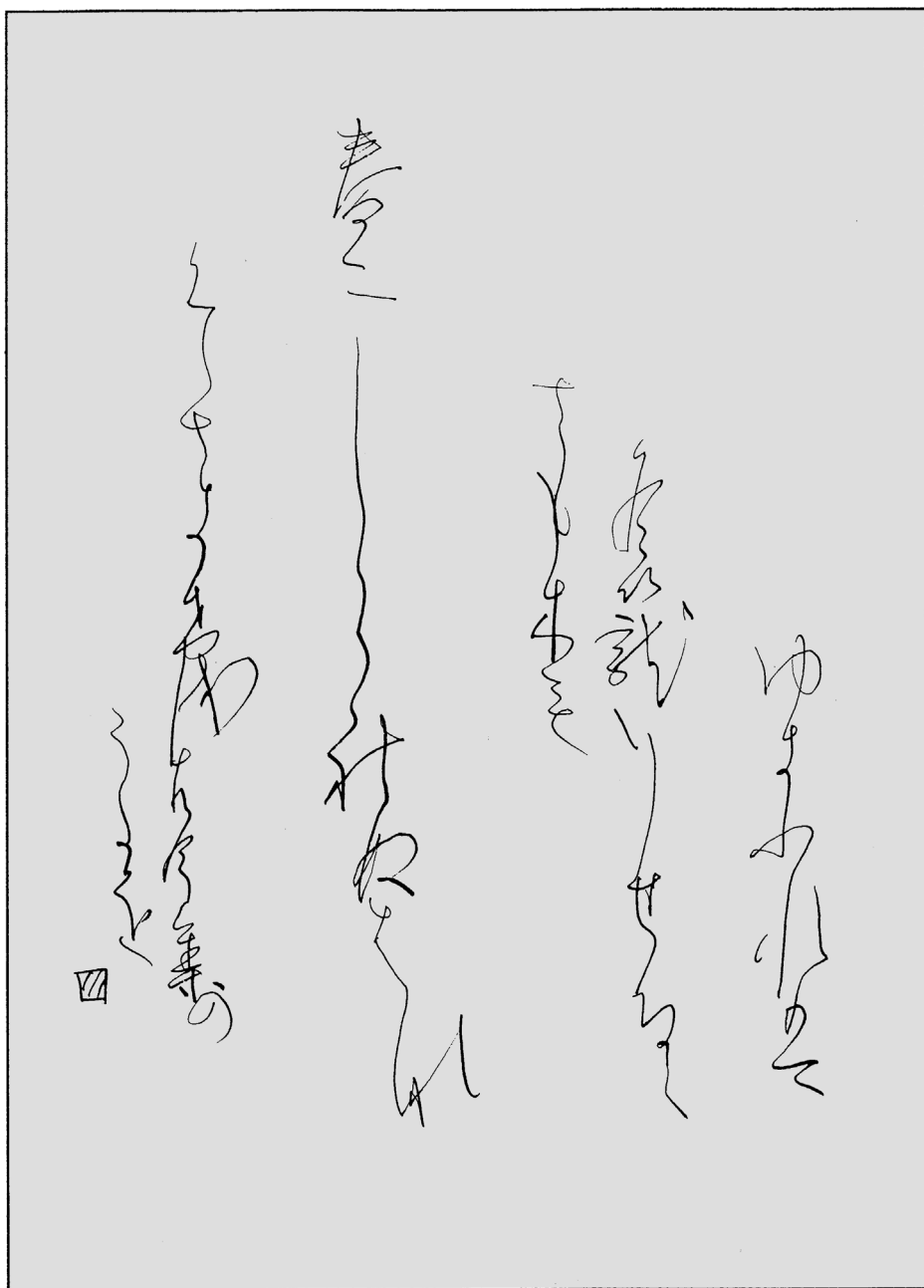
天地の間にはろと時雨かな

〔古筆参考〕



香紙切

ふるさと免ル希利は春めきにけりよしの山
みかき可者のはら免利にかすみこめたり
あか可人



締切り 十二月二十二日（必着）

築やな
 瀬せ
 舟しゅう
 香こう
 書

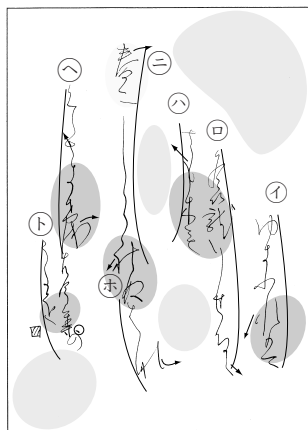
雪ゆきふふれればば 冬ふゆごごももりりせせるる 草くさもも木きもも
 春はるにに知しらられれぬぬ 花はなぞぞ咲さききけけるる

古今集の歌を
紀貫之

〔歌意〕雪が降ると、冬ごもりをしている草にも木にも、春は内緒の花が、いつせいに咲きほころんだ。

〔出典〕古今和歌集（新潮日本古典集成）

〔解説〕



・イと二、イとホ、イとへ、イとト、ロ
と二、ロとホ、ロとへ、ロとト、ハと
二、ハとへ、それぞれ呼応。

●
墨の動き。

● ○ 余白注意。

●
↙ 線の方
● 位置大切。

面の景色

「景色って何？」と云われる人もいるかと思いますが、景色とは、作品を見た時に作品の中に遠近感や、立体感を演出するものです。それを出す為には、疎密・余白（間）・線の呼応・線のリズム（遅速）、これらは全て作品に景色を盛り込む為の重要なテクニクなのです。「一字一字が上手に書けていれば良い作品だ。」とは云えません。

◆12月課題予告

冬ながら空より花の散り来るは
雲のあなたは春にやあるらむ

(清原深養父)

締切り 11月22日(必着)

先日の我が家のビッグニュース。孫が初めて写真版に選ばれました。未熟児だったあの子がいかにもしっかり成長してくれて、感激で胸がいっぱいです。孫のことにはメロメロになる昨今の爺婆です。

先日の我が家のビッグニュース。孫が初めて写真版に選ばれました。未熟児だったあの子がいかにもしっかり成長してくれて、感激で胸がいっぱいです。孫のことにはメロメロになる昨今の爺婆です。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

おか じま けい せん
岡 嶋 桂 川 書

スーザは生涯約100曲の行進曲を作曲し、マーチ王と呼ばれた。

山梨県甲府市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 11月22日 (必着)



〔出典〕 集字聖教序（672） 〔筆者〕 王羲之書より集字
〔読み〕 (霜) 雨を (蹣みて) 蹤を前む。誠重ければ



〔読み〕 善に交わる 蘭芝の如し
〔大意〕 善に交われば善に染むこと芝蘭の室に居るが如くである。



雨 而 前 蹤 誠 重

準初段から師範まで

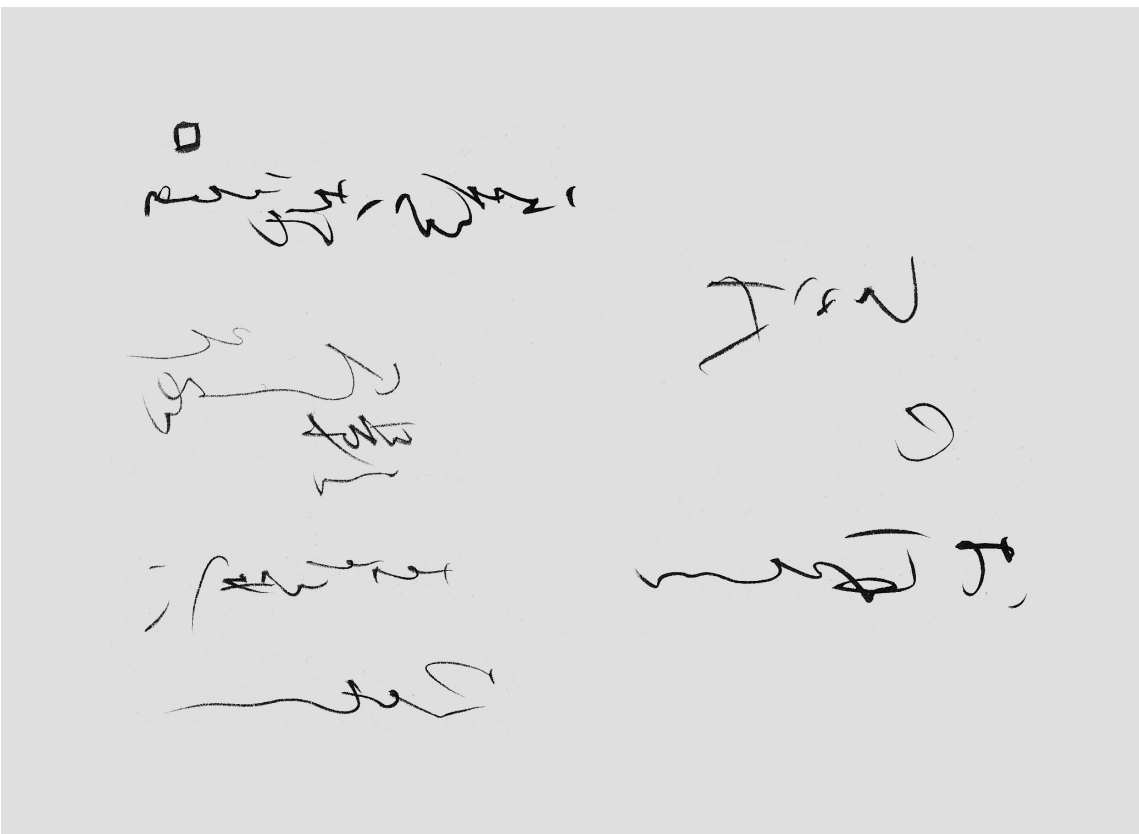
奥村暢之臨
おくむらのぶゆき

新入から1級まで (楷書)

澤静雨書
さわせいう

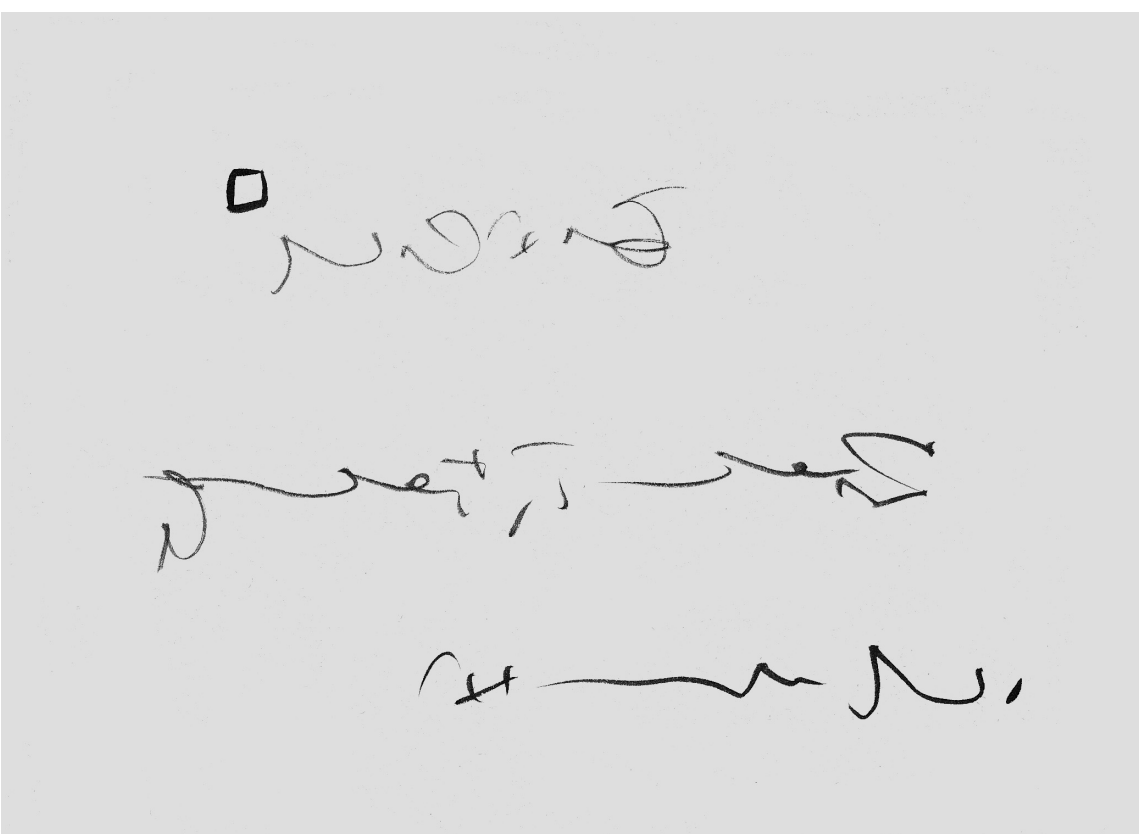
一般部毛筆かな課題

締切り 11月22日 (必着)



準初段から師範まで

うつくしき日和になりぬ雪のつく



新入から1級まで

浅井機山先生書

おほ空の月能ひかりし清まければ
おほ空の月能ひかりし清まければ
おほ空の月能ひかりし清まければ
おほ空の月能ひかりし清まければ
おほ空の月能ひかりし清まければ
おほ空の月能ひかりし清まければ
おほ空の月能ひかりし清まければ
おほ空の月能ひかりし清まければ
おほ空の月能ひかりし清まければ
おほ空の月能ひかりし清まければ

〔出典〕 古今和歌集

〔歌意〕 大空の月の光が殊に清く冴え渡っていたので、その月の姿を映

して見ていた水が、まっ先に凍ったのだなあ。

〔出典〕 炭太祇

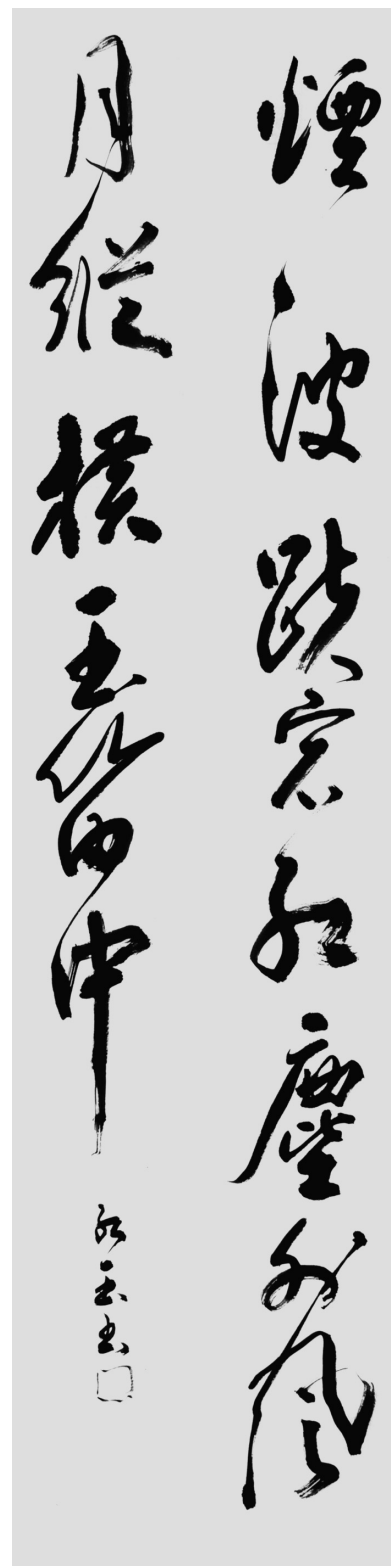
〔句意〕 戸外は白一色の雪景色である。空はみごとに晴れあがり、太陽がまぶしいばかりである。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 十二月二十二日（必着） 半切（一三六cm×三五cm）

新井清泉書



新井清泉

煙波跌宕紅塵外 月縱橫玉笛中
 風月 煙波 跌宕 紅塵 外
 月 縱 橫 玉 笛 中
 黃庭堅
 「大意」ひろびろと見える煙波は浮世の塵の外のながめ、清らかな風に明るい月は玉笛吹く声の中にほしいまにながめる。
 初出品の方へ
 支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

〔条幅解説〕創作への展開Ⅱ角川書道字典から抜粋しました。お手本通りでなく、字典を参考に様々なくずし方を取り入れ、創作作品を作りましょう。



市の美術展に初めて出品しました
 頑張ったものゝ出来は今一つ
 ぜひご高覧の上ご指導賜りたく
 よろしくお願い申し上げます
 （ご自分の氏名）

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新入から師範まで、どなたでも出書できます。

■ 成績（天位〜5等）は、評価により毎月変わります。

■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

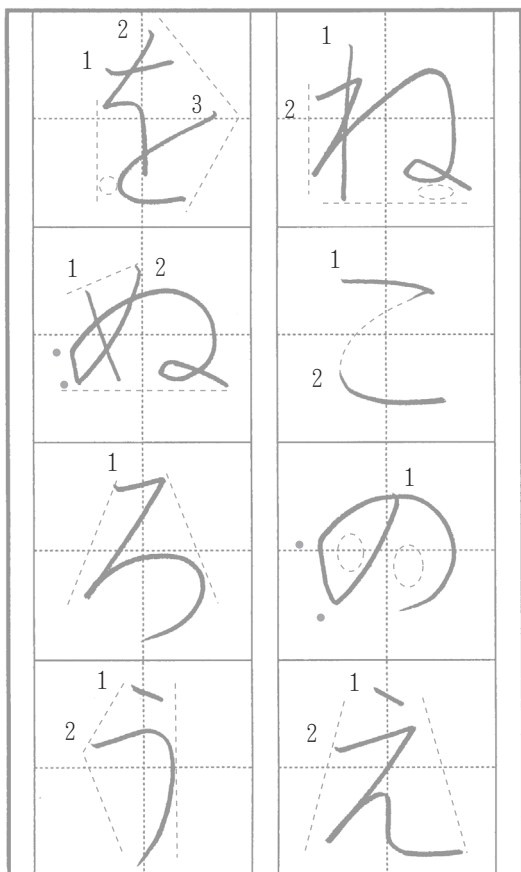
半紙（334mm×240mm）

おお みや しゅん ちょう 書
 大 宮 春 兆

市の美術展に初めて出品しました
 頑張ったものゝ出来は今一つ
 ぜひご高覧の上ご指導賜りたく
 よろしくお願い申し上げます

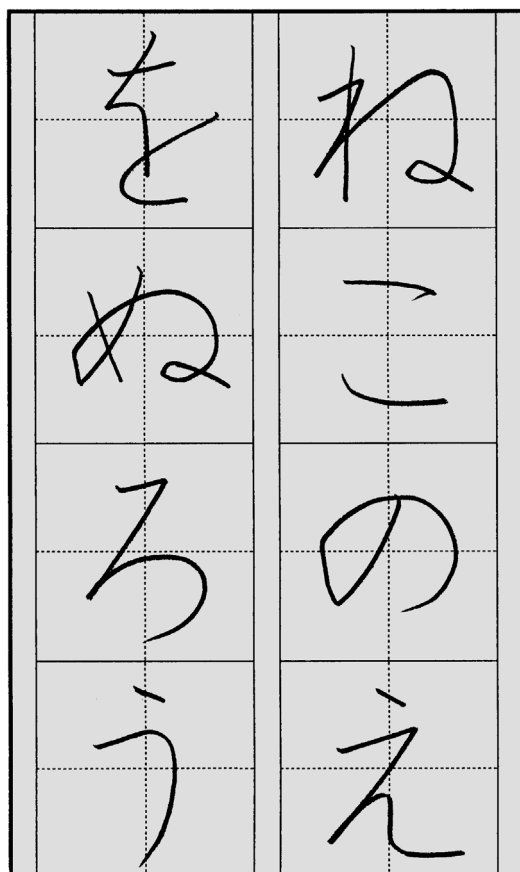
河合桃花

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)



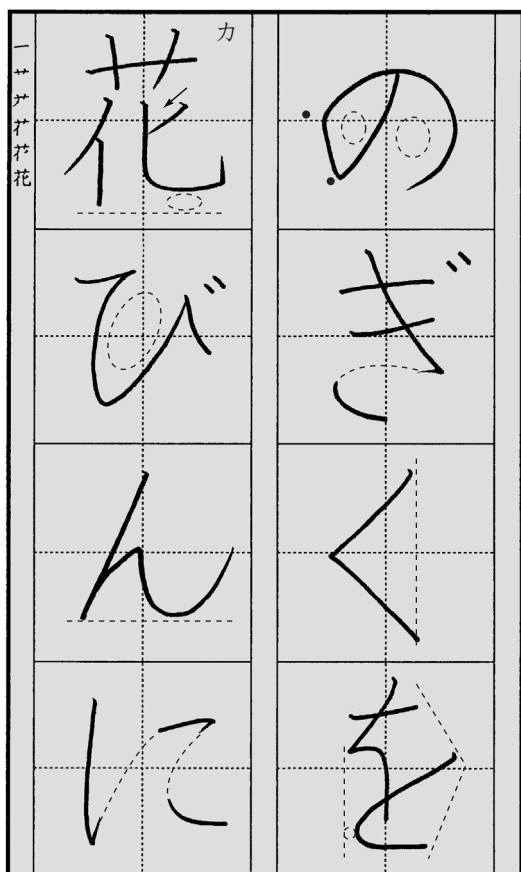
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ
う
年

小三年まで
三宅容玉書



新入1級

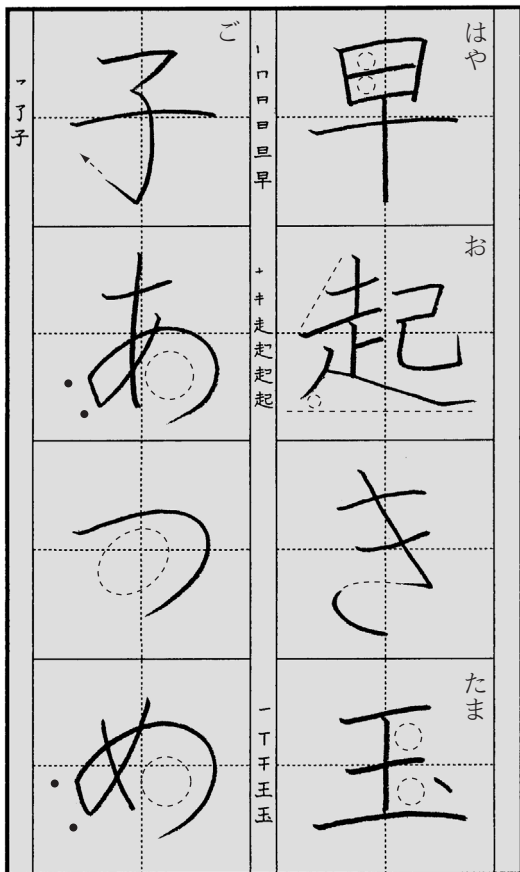
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



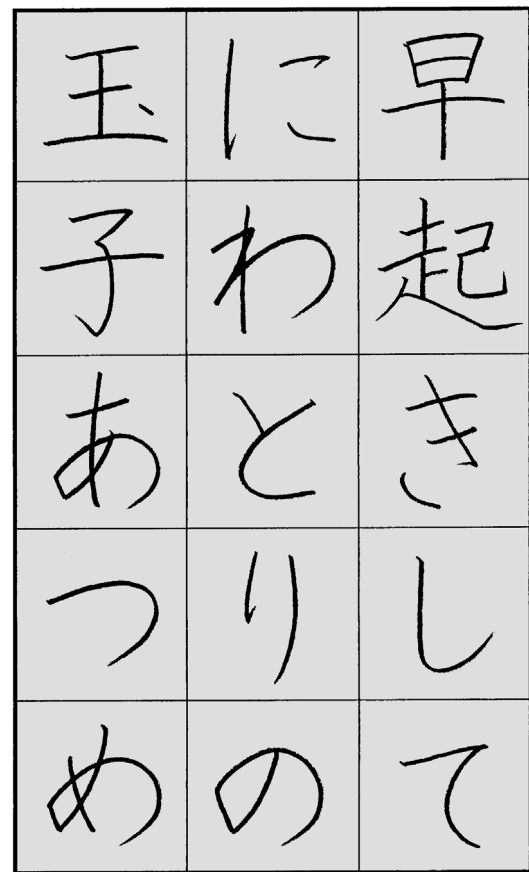
小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

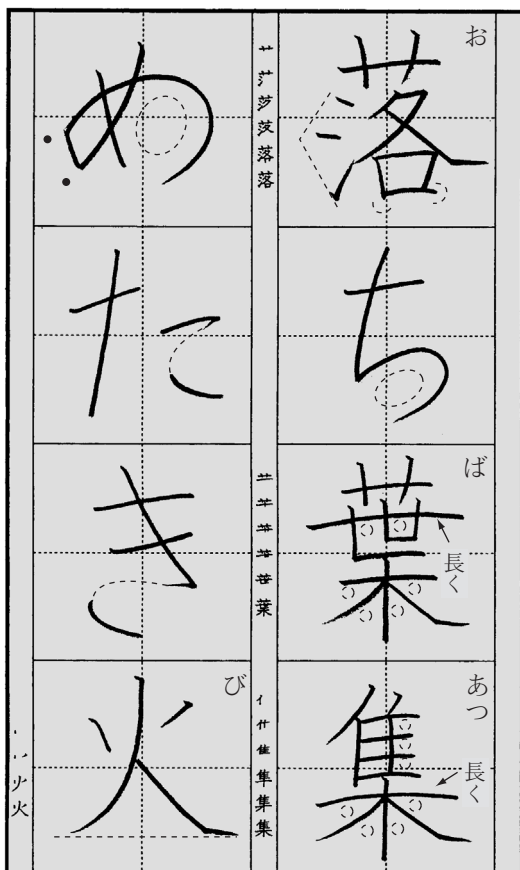


新入1級



小二年

準初段以上



新入1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小三年

準初段以上

〈用具〉自由(黒色に限る)

水	念
寺	願
見	の
た	清

新入1級

寺	念	京
を	願	都
見	の	の
た	清	町
よ	水	で

小四年

準初段以上

改	利
札	用
機	者
増	多

解説(よく見て習いましょう)

機	い	利
を	の	用
増	で	者
や	改	が
す	札	多

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

小四以上 尾郷翠光書

へようぐ 自由(黒色に限る)

フウ	ザツ
風	雑
ケン	シ
建	誌
チク	トク
築	特
いえ	シユウ
家	集

解説(よく見て習いましょう)

風	し	雑
建	て	誌
築	い	で
の	た	特
家	和	集

小六年

(全員)

◎お手本は、15マスはつけペン、8マスはデスクペンで書きました。

で	を	密
調	鳥	林
べ	類	の
た	凶	生
よ	鑑	物

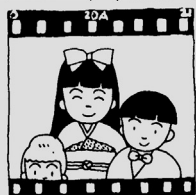
中二・三年 (楷書)

で	樹	折
応	を	れ
急	添	た
処	え	街
置	木	路

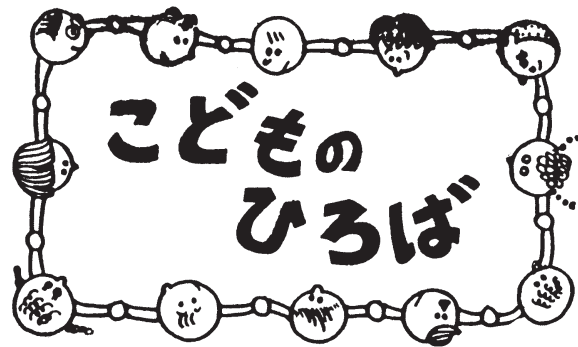
中一年 (楷書)

▼小三年以下の課題 いい ぬま じゅん こう 飯 沼 順 光 書

と	写	お	七	弟
り	真	い	五	と
ま	を	わ	三	い
し	た	い	の	っ
た	く	で		し
	さん			よ
				に



◎お手本はえんぴつ使用

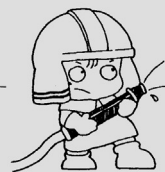


しめきり 11月22日(必着)

習っていない漢字は、
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 おお つぼ み き 大 坪 美 紀 書

十	火	こ	空	「
分	の	れ	気	火
注	元	か	が	の
意	に	ら	乾	用
し	は	の	く	心
よう		季		」
		節		



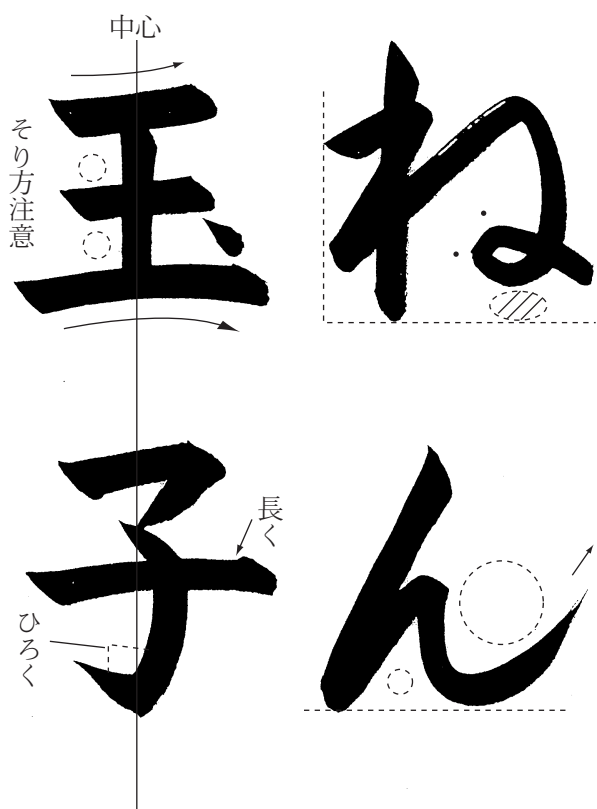
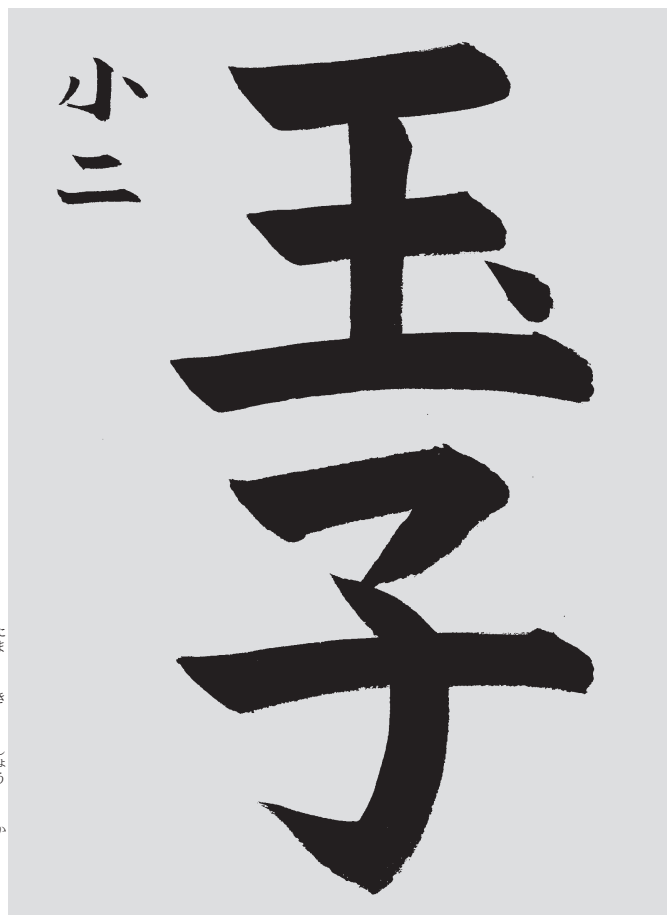
◎お手本はつけペン使用

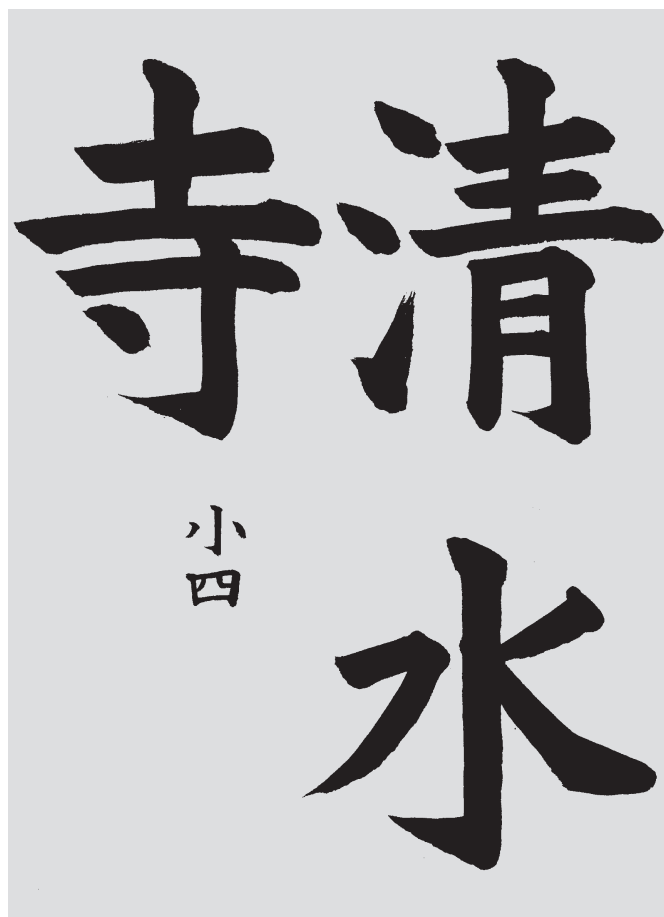
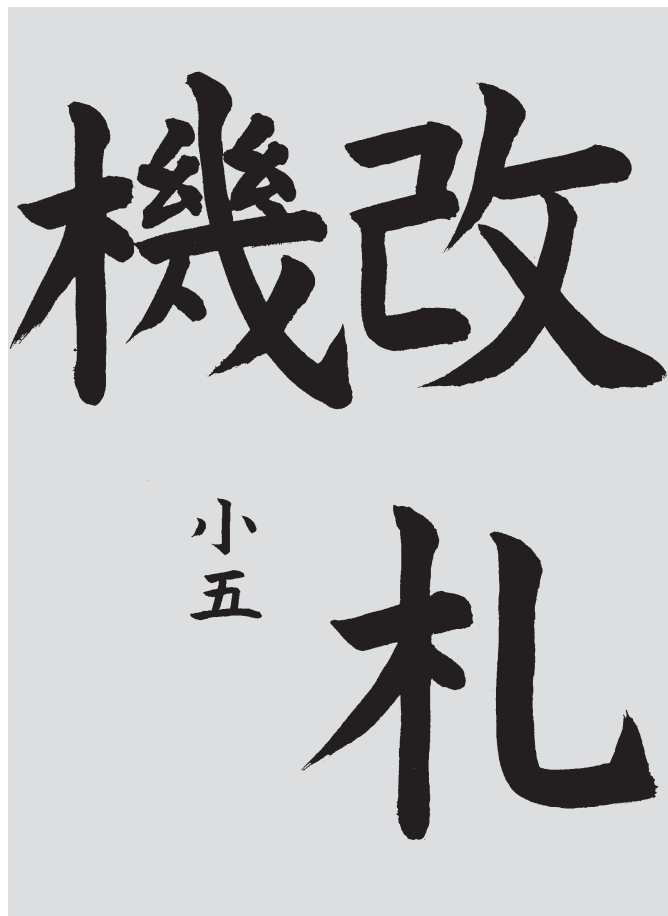
◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、四行用紙に書く場合は、文章を収まりよく短くして下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



幼年／小二年
玉樹小
華書





小三、小五年

水野の香竹書

小六・中二・三年

奥村暢之書

